

通路を起因物とする転倒の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	3	3～4	倉庫にある麦の乾燥設備取り外し工事現場において、作業が終了して後片付けを行っていたときに体勢を崩して転倒し、倉庫の床に置いてあった角パイプに後頭部を打ちつけた。	30309	1～9
1999	3	9～10	ビル清掃員が、出勤してきた同ビルテナントの社員に12階エレベーター前廊下で右側頭部を床に付けて倒れているところを発見された。	150101	10～29
2000	3	17～18	現場での作業を終え日報を書くため駐車場から事務所向かって歩行中に、転倒して頭部を強打した。	30202	10～29
2000	6	10～11	神社新築工事において、屋根作業を中断して資材の買い出しに行こうとして脚立を降りたときに口から血を流しているのが発見された。(外傷性クモ膜下出血)	30202	1～9
2000	9	21～22	駐車場ビルの巡回中、トランシーバーでの定常連絡が屋上駐車場からを最後に途絶えたので他の警備員が確認に行ったところ、屋上駐車場で意識を失って倒れているのを発見した。(頭蓋骨骨折による脳挫傷)	170201	10～29
2000	5	9～10	産業廃棄物処分場において、ドラッグショベルで地下焼却炉ピット内の焼却灰を除却する作業をしていったん運転席を降り再度運転席へ戻る途中、ピットの可動式蓋のレール(高さ34cm)を乗り越えようとして左足がレールに引っかかりバランスを崩して転倒し、顔面を強打した。	150102	10～29
		23	ガソリンスタンドの深夜アルバイトが終了し、スタンドの奥にある洗濯機置		30

2001	1	～ 24	場に向かっているときに足を滑らせ転倒し頭部を強打した。	80204	～ 49
2002	2	10 ～ 11	楽器店の看板取付工事で、現場の交通誘導員が現場2階にあるトイレに行き、用済み後にトイレから廊下に出る際に転倒し頭と腰を強打した。	170201	10 ～ 29
2002	7	13 ～ 14	水圧バーカーによる木材の皮むき作業で、昼食後に作業を開始したが機械が停止し10分ほど経っても機械が動き出さないのと同僚が見に行ったところ、機械の操作場所から離れたところでコンクリート敷きの地面に仰向で倒れていた。	10409	1～ 9
2002	11	10 ～ 11	駐車場管理人が駐車場入り口付近で血を流して倒れているのを通行人が発見し、病院に移送したが意識は回復せず、外傷性くも膜下出血、急性硬膜下出血、脳挫傷、頭皮裂創で死亡した。	170209	50 ～ 99
2002	6	8 ～ 9	雨が降っていたので会社事務所で待機中に、責任者から近くのコンビニエンスストアで缶コーヒーを買ってくるよう指示され、買いに行ったときにストアのトイレで転倒して頭部を激突した。	30110	1～ 9
2002	12	13 ～ 14	墓地の石垣築造に伴う残土の搬出作業で、ハンドガイド式運搬機に残土を積み、後進で途中まで走行しそこで方向転換を行ったときに、足を側溝に踏み外して転倒し運転していた運搬機に轢かれた。	30199	10 ～ 29
2004	10	4 ～ 5	パン工場で操業準備作業を行っていたところ、足を滑らせて転倒した。	10104	30 ～ 49
2004	1	19 ～ 20	回収されてきた宅配用商品容器をローラーコンベアにて上げる作業を行っていた被災者が、コンベアを跨いで反対側へ渡ろうとしたところ、バランスを崩して倒れ、コンベアに激突した。	80401	300 ～
2004	5	15 ～ 16	電柱立替工事現場において被災者が交通誘導を行っていた際、高所作業車が次の場所へ移動したため、急いで後を追いかけていたときに転倒した。	170201	100 ～ 299

2004	6	18 ～ 19	作業を終了し帰宅準備を終えた後、現場内のドラグ・ショベルに鍵を戻しに行くため現場に戻ろうとして鍵を閉めてあったクロスゲートを乗り越えようとしたところ、ゲート上部でバランスを崩し飛び降り、着地時に下に敷いてあった鉄板で足を滑らせ転倒した。	30201	30 ～ 49
2004	6	18 ～ 19	夕刊の配達中、道路上で転倒した。	80205	30 ～ 49
2005	7	16 ～ 17	木造建造物解体後の廃材搬出作業中、転倒した。	30202	1～ 9
2005	2	11 ～ 12	事務所から作業箇所に向かう途中で転倒した。	80409	100 ～ 299
2006	1	18 ～ 19	客先において、ネットワーク工事完了後、通信機器の確認及び提案パソコンのカタログを入手するため、家電量販店に立ち寄っていたところ、通路にて転倒した。	80109	50 ～ 99
2006	8	18 ～ 19	寮の委託管理業務を住み込みで行っている被災者は、管理業務の一部である建物内の巡回を行っている途中、1階の廊下で転倒し、体を強打した。被災後、被災者は自力で管理室に戻ったが、翌日の朝、自宅リビングで倒れている被災者を家族が発見し、病院へ搬送されたが死亡した。	170209	1～ 9
2006	8	5 ～ 6	被災者は新聞および情報誌を配達中、一般住宅敷地内において転倒した際にアスファルトの路面に強打した。被災者は転倒後、2件の住宅に新聞等を配達したが、2件目の住宅において家主に救急車を要請し、医療機関に搬送されたが、死亡した。	80205	30 ～ 49
2006	12	16 ～ 17	配達先で木材の束をトラックの荷台から降ろすために、配達先に設置されている天井クレーンを使用して作業していたところ、床コンクリート上に倒れているのを発見された。	80109	10 ～ 29

2007	10	9 ～ 10	被災者は事業場内で歩行中に転倒した。帰宅後に症状が悪化し、死亡した。	10109	～ 99
2007	6	11 ～ 12	携帯電話基地局の施設内での除草作業中、被災者が持ち場を突然離れたため、作業を指揮していた現場責任者が現場内を探したところ、現場敷地の隅のアスファルトの上で被災者が横になっていた。病院に搬送されたが死亡した。	150109	1～ 9
2007	2	11 ～ 12	豆腐製造工程において、豆乳室の大豆が搬送されるマジックローダー（ホッパー）の清掃を脚立上で行った後、脚立から降りて大豆定量機と生呉（大豆をすり潰したもの）タンクの間を移動中転倒した。	10109	～ 299
2007	11	7 ～ 8	販売所長が店の入口前で自転車と共に倒れている被災者を発見した。被災者は配達を終えて一旦帰宅、誤配の確認のため再度出勤しようとし、店の入口で転倒した。	80205	1～ 9
2007	11	13 ～ 14	昼食後一旦事務所に戻った後、事務所前道路に駐車してあった社用車（軽自動車）に乗り込もうとしたところ、転倒し、倒れているところを発見された。	40102	30 ～ 49
2008	4	20 ～ 21	被災者は、ホテル内レストランにおける調理業務の終了後、帰宅するために厨房から出てホテル建物の外廊下を歩行していた際、吹き込んでいた雨で濡れていたコンクリートの通路上で転倒し、死亡した。	140201	10 ～ 29
2009	8	10 ～ 11	コンクリートミキサー車を使用して生コン工場敷地内に散水するため、ミキサー車のタンクにホースで水を入れる作業中、タンクの水量を確認するためミキサー車後部に近づいたところ、コンクリート床が濡れていたため、足を滑らせて転倒した。	80209	1～ 9
2010	1	12 ～ 13	事業場内で倒れている被災者を同僚が発見し、救急車で病院へ搬送したが、8日後に頭部の負傷により死亡した。災害発生直前、被災者は生コンクリート出荷準備のため、ミキサー車の点検作業を行っていた。被災者が倒れていた場所は床が凍結しており、滑りやすい状況であったことから、転倒したと推測される。	10901	1～ 9

2010	1	11 ～ 12	被災者は、煮沸した豆の充填機のパレーター補助を行っていたが、昼の休憩前に、機械周りにたまった水を取り除くため、掃除道具（水切り）を道具置き場に取りに行き、戻ってくる途中の通路（水があり滑りやすかった）に於いて転倒し、頭部を強打した。即座に救急車が呼ばれて病院に搬送されたが、翌日死亡した。	10109	10 ～ 29
2010	1	9 ～ 10	在宅型の福祉センター内において、デイサービス利用者を駐車スペースの送迎バスからセンター2階へ誘導する介護業務を行った後、事務室に戻る途中の廊下にて何らかの理由により転倒し被災したもの。災害が発生してから約10ヶ月後に死亡した。	130201	30 ～ 49
2010	2	8 ～ 9	現場事務所内にて朝の打ち合わせ終了後、約150m先にある作業現場へ徒歩にて敷き鉄板の上を歩行中、現場事務所から約100m進んだ下り勾配の凍結箇所転倒し、頭部を強打したとみられる。被災日は他の労働者と同様に夕方まで作業を行い、帰宅後に痛みがあったため、受診して術を受けたが、10日後に死亡した。	30108	1～ 9
2010	8	7 ～ 8	意識不明の状態保安室の仮眠室において被災者が倒れているのが発見され、病院に救急搬送され入院加療していたが、11日後に死亡したもの。転倒して側頭部を打撲したとみられる。	150101	10 ～ 29
2010	9	10 ～ 11	青果店において、商品発注のための作業を店外で行っていた被災者が店内に入ろうとした際、入口に敷いてあったマットの弛みに足を取られ、転倒し、右膝を骨折したため、医療機関で治療を受けた後、自宅で療養をしていたところ、7日後に血管が詰まったため倒れ、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	80209	1～ 9
2010	12	16 ～ 17	鉄骨造2階建の事務所新築工事現場において、下請の労働者が、型枠材の解体作業中、1階の建物の中から型枠材を持って建物の外へ搬出しようとした際、出口でつまずいて転倒し、出口付近の基礎から上方に出ていた鉄筋（長さ約40cm）が、被災者の顔面に刺さり死亡したもの。	30201	1～ 9
		11	被災者は、上司2名と関係数社に年末の挨拶にまわっている途中、道路沿い		100

2010	12	～	の歩道を歩いていたところ転倒した。転倒の際に顔面と頭部を強打し、病院	11209	～
		12	へ搬送されたが、頭部の負傷により約1週間後に死亡した。		299
2011	10	15	被災者は、午前中は工場内で鉄材の錆び取り等の軽作業を行い、午後からは	11209	10
		～	同工場内で製作されたバイオディーゼル燃料タンク5台（内容量1.9KL）を塗装するため、屋外の塗装場に搬送する作業に従事していた。2台目		～
		16	の搬送作業中に午後3時の休憩時間（15分）となった。午後3時8分頃、		29
			搬送作業中のタンクの傍らで倒れているのを通りかかった同僚が発見したものの。災害時の目撃者はいない。		
2011	1	9	屋内で新車のワックスコーティング作業を行っていた被災者がコンクリート	170209	10
		～	床に仰向けに転倒して後頭部を強打。脳挫傷、頭蓋骨骨折により搬送先の病		～
		10	院で翌日死亡したものの。		29
2011	2	13	被災者は牧場第1号厩舎へ牛に飼葉を与えに行ったが、通常の時間になって	70101	1～
		～	も戻ってこなかったことから、同僚労働者が第1号厩舎へ確認に行ったところ、意識混濁状態で鼻から血を流して歩いていたため、救急車により黒部市		9
		14	民病院に搬送、後頭部頭蓋骨骨折・脳挫傷により平成23年2月27日午前		
			11時10分死亡するに至ったものである。		
2011	1	8	被災者は除雪用品売り場のスコップが少なくなってきたために、スコップの	80209	100
		～	補充をしに農業資材コーナーに行った。その後、客から人が倒れているとの		～
		7	連絡があり、売り場に確認に行くと9尺の脚立の傍で被災者が倒れていた。		299
			病院に搬送される時は意識があり、病院に運ばれてからもしばらくは人とも		
			会話できていたが、11時頃になって急変し緊急手術を受けた。それから意識は戻らず、2月5日に死亡したものの。		
2011	3	11	工場内で、製品出庫作業中、何らかの原因で転倒し、頭部を強打した。（右	10602	100
		～	側頭部の打撲による硬膜下血腫及び脳挫傷、3月27日（日）午前10:3		～
		12	0入院先の病院で死亡）6月17日労災支給決定。確定		299
2011	8	9	被災者はグループホーム入居者からの呼び出しコールが鳴ったため、スタッ	130201	30
		～	フルームから走って居宅へ向かっていたところ、モップで水拭きした廊下で		～
			足を滑らせ転倒した際、後頭部を強打したものの。その後、被災者は8月30		

		10	日7時1分に死亡した。		49
2012	6	10 ～ 11	テナントビルにおいて、被災者はエレベーターホールの床をモップで清掃していたところ、足を滑らせ前方に転倒し、頭部および胸部、大腿部を床面に打ちつけた。なお、被災者は最寄りの病院へ行き、頭部の検査を受け打撲と診断されたが、大腿部に骨折の疑いがあるため精密検査を受けるよう指示を受け、翌日別の病院で検査を受けたところ、心臓に異状が認められ入院していたが、1週間後に様態が急変し死亡した。	150101	10 ～ 29
2012	5	17 ～ 18	被災者は業務を終了し、帰宅のため2F事務所の出入口から外部階段に通じる踊り場に出ようとしたところ、雨で濡れていたために転倒し、頸髄損傷により意識不明となり、救急搬送先の病院で死亡した。	30201	1～ 9
2012	1	7 ～ 8	被災者は工場増設工事にて工事関係車両の交通誘導等の警備業務に従事していた。被災当日、業務開始直後、工事で区画された歩行者通路を歩いていたところ、凍結した路面で足元が滑り転倒、頭部を路面に強打し、救急搬送先の病院で死亡した。なお、被災当日の朝の最低気温は氷点下8度であった。	170201	30 ～ 49
2013	1	9 ～ 10	橋型クレーンの操作中、突然被災者が前のめりに倒れ、その際床にあった棒状の鉄板端材が顔面から突き刺さった。	11501	10 ～ 29
2013	1	17 ～ 18	被災者は、テニス練習場において、テニス指導員として中高生を対象にテニススクールのレッスンを行っていたところ、生徒の往復疾走に併走してバックステップをしていた際、後方から転倒し、頭部を激しく強打した。	140309	10 ～ 29
2013	7	13 ～ 14	被災者は、2階製造フロアーにおいて、練り物製品の製造業務に携わっており、2階製造フロアーで作業のためフライヤー横付近を歩いていたところ、足を滑らせ転倒し、頭部を床に強打した。	10102	10 ～ 29
2013	1	14 ～ 15	降雪のため工事現場に向かう林道が不通となったことから、同僚がトラクター・ショベルで雪かきを行っていたところ、被災者は雪かきを行っていた作業現場から少し離れた乗用車に向かって歩いている途中、アイスバーンとなっていた下り坂の道路で転倒し、頭部を負傷した。	30106	10 ～ 29

2013	1	4 ～ 5	雪と雨が混じったシャーベット状態の道路上を歩いて朝刊を配達していた際、滑って転倒し、後頭部を打った。	80205	30 ～ 49
2014	11	9 ～ 10	警備作業中、対象店舗内の通路を歩行していたところ、転倒し、頭部を打撲し、死亡した。	170201	100 ～ 299
2014	11	8 ～ 9	屋根の防水工事中、同僚1名と被災者が足場の階段を使用し、地上から2階に登った際、先に登った同僚が足場2段目で下を見たところ、地上で被災者が倒れているのを発見した。被災者は頭部外傷により死亡した。尚、被災者は保護帽を着用していなかった。	30201	1～ 9
2015	4	15 ～ 16	キャベツの芯取り作業を行っていた被災者が、転倒した際に床に頭部をぶつけた。帰宅後、病院を受診し頭蓋骨骨折で即時入院となった。翌26日に脳内出血により意識不明となる。30日、0時40分頃死亡したもの。業務上外について現在調査中である。	10109	100 ～ 299
2015	10	1 ～ 2	軽ワゴン車に配達用の新聞を積み込む作業をしていたところ、転倒し、後頭部を床に打ち付けた。意識はあり、引き続き6時間ほど業務を行い、所定終了時刻にて退社。翌18日の朝になって吐くなどしたため、病院を受診したところ、そのまま入院となり、19日に手術が行われたが、21日に死亡した。	80205	50 ～ 99
2016	11	10 ～ 11	立体駐車場への車両誘導等の業務を行っていた被災者が、駐車場敷地内で転倒した際に脊髄損傷を発症し、当該疾病の療養期間中に、誤嚥性肺炎によって死亡した。	90209	10 ～ 29
2016	9	20 ～ 21	被災者は、毎月1回、社で開催される支店長会議に出席した。会議終了後、全員参加の懇親会に出席した後、自宅に帰る途中、駅のホームで転倒、床に頭部を打ち、病院に救急搬送された。搬送先の病院で入院、治療を受けていたが、約1週間後に死亡した。	170209	1～ 9
		14	太陽光発電システム設置工事において、パネルからの電線をケーブルホースに通す作業中、被災者がロープを引いたため、ケーブルの束の先端に繋いだ		10

2016	8	～ 15	ロープが外れ、これにより被災者は倒れ、床面で頭部を強打し、脳挫傷による死亡が確認された。	30309	～ 29
2016	7	～ 10	出勤時、職員通用口へ向かう通路で滑って転倒し後頭部等を打った。打撲・擦り傷程度と考えていたが、5日後勤務中に気分が悪くなり倒れているところを発見され救急搬送されたが病院で死亡した。	140101	～ 299
2016	5	13 ～ 14	反物の仕上げ作業中、仕上げ機械前の通路において、被災者が仰向けに倒れていたところを同僚が発見し、即日救急車で搬送されて入院治療を受けていたが、当該災害発生後から約3ヶ月経過した8月17日に入院先の病院で死亡した。	10204	10 ～ 29
2016	1	～ 5	被災者は、新聞配達の業務終了後、自宅に帰り、朝食を取って寝ていたところ、突然頭の痛みを訴え、「配達中に転んだ」と伝えた後、呂律が回らなくなり、病院搬送され手術を受けたが、そのまま亡くなった。	80205	1～ 9
2016	1	5 ～ 6	新聞配達のため、町道を歩いていた際、転倒し、頭部を負傷し死亡した。	80205	30 ～ 49
2017	12	～ 9	民家の解体工事において、廃材をキャリア（ハンドガイド式の運搬車）に乗せて置き場へ運搬していた被災者が、頭部を負傷し道路に倒れているところを発見された。	30202	1～ 9
2017	12	20 ～ 21	調理師である被災者は、事業者の運営する飲食店での業務を終え、同事業者の所属事業場へ徒歩で移動中、路上で倒れているところを通行人に発見され、救急搬送されたが死亡した。被災者が倒れていた路上は凍結して滑り易くなっていた。	140101	100 ～ 299
2017	7	～ 15	コンクリート殻の搬出を終えて現場に戻った被災者（ダンプ運転者）が、現場内を歩いていたところ、ヤード内に置いてあった鉄網付近で転倒し、頭を強打して首を損傷した。	30106	10 ～ 29
		14	午後2時30分頃、被災者が5階ロッカー室のソファで意識のない状態で発見され、救急車で病院に搬送されるも、9日後に死亡した。死因は後頭骨		100

2017	2	～ 15	骨折、脳挫傷であり、被災者が就労施設内のどこかで転倒したものと推定される。	140101	～ 299
2017	2	～ 17	下水道工事現場において、町道を走行するドラグ・ショベルの土場までの交通誘導を終え、町道を歩いて下水道現場に置いてある車に戻る途中に、何らかの理由で倒れた。倒れていた被災者は誘導旗の棒の先端が右目を貫通している状態で発見された。歩行中、町道の側溝の取手穴に躓いて転倒したものと推定される。	170201	～ 49
2017	1	～ 7	車で朝刊配達中、足がつり足の動きが悪くなってきたため、車外に出て配達の手伝いを求めてアスファルト製の道路上で待っていたところ、転倒して頭部を打ち2日後に死亡した。	80205	～ 29
2018	10	～ 9	廃プラスチックの収集運搬作業中、集積所へ向かう途中、坂道でつまづき近くの電柱に体を支えようとしたが支えきれず前向きに転倒し顔を強打したものの。後日、死亡が確認されたもの。	40301	～ 49
2018	9	～ 17	公園内での剪定及び伐採作業の片付けを行っていた際、歩行中に前方向に転倒した。（4日後に腹部の痛みを訴え、救急搬送された病院では脾臓損傷と診断され、入院の10日後に死亡した。）	60101	1～ 9
2018	7	～ 17	請け負った冷蔵室の扉取付け工事が終了後、脚立の真下で倒れている被災者を同僚が発見。後日脳挫傷により搬送先の病院で死亡した。被災者は、脚立の下で屈んで施工箇所の最終チェックをした後、立ち上がろうとしたとき、後頭部を脚立の脚の角度を保つための金具に激突した弾みで、コンクリート製の床面に倒れ、顔面を強打したものの。保護帽未着用。	30302	1～ 9
2018	1	～ 5	新聞配達中の被災者が、生活道路上（斜度：約10度）を徒歩で移動中に転倒して頭部を強打したもので、入院加療を行ったが、急性硬膜外血腫のため、死亡したものである。	80205	～ 49
2019	10	～ 14	下水道工事現場に近接する道路上で転倒し、後頭部を強打した。	30110	～ 29

2019	10	16	営業業務から帰社し、当日夜間に現場で使用する機械の運搬について業者と打ち合わせた後、ふらふらし始めバランスを崩し転倒した。転倒時コンクリート面に後頭部を打ち付け、硬膜外血腫により死亡した。	30106	1 ~ 9
2019	6	12	インク製造棟内作業場のコンクリート床で、頭部から出血し、あおむけで卒倒している状態の被災者が発見された。外傷性くも膜下出血、脳挫傷、急性硬膜下血腫と診断され、事故3日後に死亡が確認されたもの。	10808	10 ~ 29
2019	1	6	午前頃、顧客から当該給油所が営業していない旨の連絡があり、担当者が当該事業場に駆け付けたところ、被災者は頭から血を流した状態で監視室の椅子に座り、意識を無くしていた。救急車で搬送されたが死亡が確認されたもの。現場の状況等から、被災者はガスリンスタンドの洗車場の前で転倒し、頭を打ったものと推定される。	80204	1 ~ 9
2020	11	22	補修工事を終えた道路の警備をしていた被災者が、勤務時間中に転倒し、路面に後頭部を打ち付けて死亡したもの。	170201	10 ~ 29
2020	11	4	新聞配達中に歩道上で倒れていたところを通行人に発見され、救急搬送された。「脳挫傷」、「急性硬膜外血腫」と診断され治療を受けていたが、翌日死亡したもの。	80205	10 ~ 29
2020	9	8	水産食料品を製造する工場内において、高温高圧殺菌用圧力容器の配管（塩ビ管、内径40mm）のうち、高さ2.25mの位置にある逆止弁の取り替え作業を行っていたところ、心肺停止状態で床面に倒れているところを発見されたもの。	30302	1 ~ 9
2020	7	14	工場内で体調が悪くなり、倒れた際に、頭部を工場内設備に激突し、急性硬膜下血腫を併発したもの。	11203	10 ~ 29
2020	5	14	チラシを積み込んだかご車に、荷崩れ防止用のバンドを2本掛け、バンドに足を掛けてバンドを締める作業を2名で行っていたところ、かご車が後方に倒れ、被災者はかご車とともに転倒し、床に頭を強打した。被災者は病院に収容されたが、2日後に脳内出血のため死亡した。	10709	300 ~ 499

2020	4	14 ～ 16	被災者が休憩室内の休憩スペースからトイレ間の通路で倒れ後頭部を強打した。翌日休憩室内の当該場所で倒れている被災者を発見し、病院へ救急搬送されるも、後日死亡した。	140101	100 ～ 299
------	---	---------------	--	--------	-----------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html